



つくどじんじゃ
 築土神社

及境内末社 世継稲荷神社

御祭神

主神 天津彦火瓊杵尊
あまつひこほのになぎのみこと

相殿 平将門公 菅原道真公

御由緒

築土神社は天慶三年(九四〇)、関東平定の末、藤原秀郷らの手で討たれ京都で晒し首にされていた平将門公の首を首桶に納めて持ち去り、これを武蔵国豊島郡上平河村津久戸(現・千代田区大手町周辺)の観音堂に祀つて津久戸明神としたのがはじまりで、江戸城築城後の文明一〇年(二四七八)には、太田道灌が江戸城の乾(北西)に当社社殿を造営。以来、江戸城の鎮守神として厚く尊崇された。

天文二十二年(一五五二)には、田安郷(現・九段坂上付近)に移転。当時の境内地は広大で、その



平将門の首桶(築土神社旧蔵)



天水桶 (文永元年・1818)

平将門公御肖像 (築土神社旧蔵)



地名を冠して田安明神とも称し、山王(日枝神社)、神田(神田明神)とともに江戸三社の一つに数えられた。然るに天正一八年(二五九〇)、徳川家康江戸入城の際、江戸城拡張のため牛込見附(現・飯田橋駅付近)へ、さらに元和二年(二六一六)には江戸城外堀拡張のため新宿区筑土八幡町へと移転し、築土明神と改称した。

徳川幕府終焉後の明治七年(一八七四)天津彦火邇々杵尊を勧請し築土神社と改称。その後昭和二〇年(一九四五)戦災により社殿・社宝等全焼し、翌昭和二十二年(一九四六)千代田区富士見へ移転。さらに昭和二十九年(一九五四年)、現在地へ移転した。平成六年(一九九四)社殿老朽化に伴い社殿・社務所をビル化。この時、境内にあった末社の天満宮より菅原道真公を合祀し、現在に至っている。



末社

世継稲荷神社

よつぎいなり

御祭神

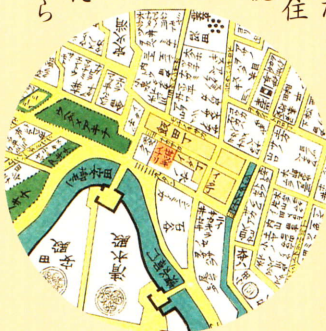
倉稲魂神
うがのみたまのかみ

世継稲荷は嘉吉元年(二四四二)、飯田町(現：中坂付近)に創建。当時この辺を田安郷と云ったことから田安稲荷と称された。その後天正一八年(二五九〇)徳川家康江戸入城の際、二代將軍秀忠この地を巡覧し当社を参詣。境内に神木、橙の木があるのを見て、これが「代々」と同音であつたことから「代々世を継ぎ」

栄える」と称賛し、以来、世継稲荷と云われるようになった。

江戸時代を通じて、滝沢馬琴をはじめ地元の俳諧・住民の信仰厚く、文久二年(二八六二)には皇女和宮内親王も当社を参詣されている。

当時の社殿は壮麗で、その天井には琳派の花鳥絵をはじめ日本画の大家・椿椿山の筆による龍が描かれていたが、昭和二〇年(一九四五)戦災により社殿焼失。当時社を守りしていた社司がご神体を抱いて殉死したため、昭和二九年(一九五四)これを称える慰霊碑が建てられ、その後社殿を再建。現在に至っている。



千代田区指定文化財



狛犬(安永九年・1780)

千代田区指定文化財



力石(江戸時代後期)

行事

一月一日 歳旦祭

一月十五日 中祭(初祭)

二月三日 節分祭

六月三十日 夏越大祓

九月十五日 例大祭

十一月二十三日 新嘗祭

十二月三十一日 大祓式及び除夜祭





氏子区域

九段南一ノ二丁目

飯田橋一、四丁目

富士見一、二丁目

北の丸公園

一ツ橋一丁目

市谷船河原町(新宿区)

築土神社 社務所

二一〇一・〇〇七三

東京都千代田区九段北一―一四―二一

電話 〇三(三二六一)三三六五

FAX 〇三(三二六一)八六三四

ホームページ <http://www.tsukudo.jp/>

<http://www.tsukudo.jp/>